

# 自主防災組織を町全域に

## 結成の促進を図っていく



吉川淑子議員

**質問** 近年、世界・国内とも地震や津波による大災害が発生している。また、私たちの三陸海岸も過去には多く被害を受け、多くの人命や財産が奪われている。大災害が発生した際の状況をテレビで見ると、各防災機関の職員などの災害対策本部への参集は、大変困難であると推測される。

そのためにも地域の協力・協働を基本に自主防災組織を町全域に、なるべく早く設置すべきでないか。

**沼崎町長** 地震が起きてから三十分で津波が到達すると予測されており、避難

誘導や門扉の閉鎖などに対応できないことも十分予測される。阪神淡路大震災では家屋の下敷きになった被災者の九〇割は地域住民に救出されたと言われている。

町民も「自分の命は自分で守る」を基本に、日頃からどこに避難するか、どの道を通れば安全か家族や近所同士、自治会、自主防災組織などで話し合いや確認をし、地震に対する備えや危機意識を持つことが大事である。そのため、各地区に自主防災組織の結成を呼びかけており、今後も結成の促進を図っていく。

### 高齢者対策

## 「喜寿を祝う会」の問題点

### 関係団体との調整を密に

**質問** 毎年、各地区で行ってきた敬老会を今年から「喜寿を祝う会」と改め、対象者を七十七歳とし、町中央公民館の一会場で開催することとなった。

年々増え続ける高齢者、

### 町の考えを聞く



9月25日に行われた「喜寿を祝う会」。招待者213人中92人が出席し、喜寿を祝いました

参加率の低下状況を見れば、やむを得ないものと思う。一段と進む高齢化社会の中での行政サービスのあり方として、大きな政策の見直しだったと考える。そこで次の点を問う。

- ① 「喜寿を祝う会」の男女別の対象者の人数と参加率は。
  - ② 問題点や今後の課題は。
- 沼崎町長**
- ① 対象者は、二百十三人で、男八十四人、女百二十九人。参加率は、四三・二割であった。
  - ② 参加率が五〇割にも満たないことから、参加率を向上させることが課題である。協力いただいた関係団体との事前打ち合わせ不足もあり、来年度からの開催には、関係団体との調整を密にし実施する。